

## 磐梯山の火山活動解説資料（平成 31 年 2 月）

仙台管区气象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

## ○ 活動概況

## ・ 噴気など表面現象の状況（図 1～6、図 7-①）

剣ヶ峯に設置している監視カメラによる観測では、山体北側火口壁の噴気の高さは 100m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。櫛ヶ峰に設置している監視カメラによる観測では、沼ノ平周辺に噴気は認められませんでした。

25 日に陸上自衛隊東北方面隊の協力により実施した上空からの観測では、前回と比較して、沼ノ平噴気地帯及び山体北側火口壁噴気地帯の噴気と地熱域に特段の変化は認められませんでした。

## ・ 地震や微動の発生状況（図 7-②～⑥）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

## ・ 地殻変動の状況（図 8、図 10）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>



図 1 磐梯山 山体北側火口壁の噴気の状況  
(2月9日)

- ・ 剣ヶ峯（山頂の北約 7 km）に設置している監視カメラの映像です。
- ・ 赤丸で囲んだ部分が山体北側火口壁からの噴気で、この時観測された噴気の高さは 100m です。



図 2 磐梯山 沼ノ平周辺の状況  
(2月19日)

- ・ 櫛ヶ峰（沼ノ平の北東約 600m）に設置している監視カメラの映像です。

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ ([https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成31年3月分）は平成31年4月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号 平 29 情使、第 798 号）。

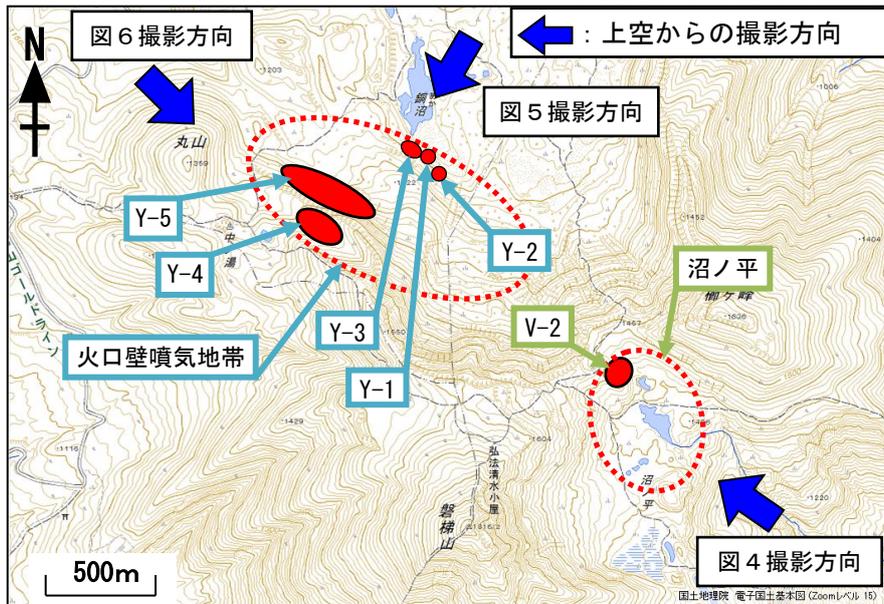


図 3 磐梯山 噴気地熱域の分布及び上空からの写真と地表面温度分布撮影方向

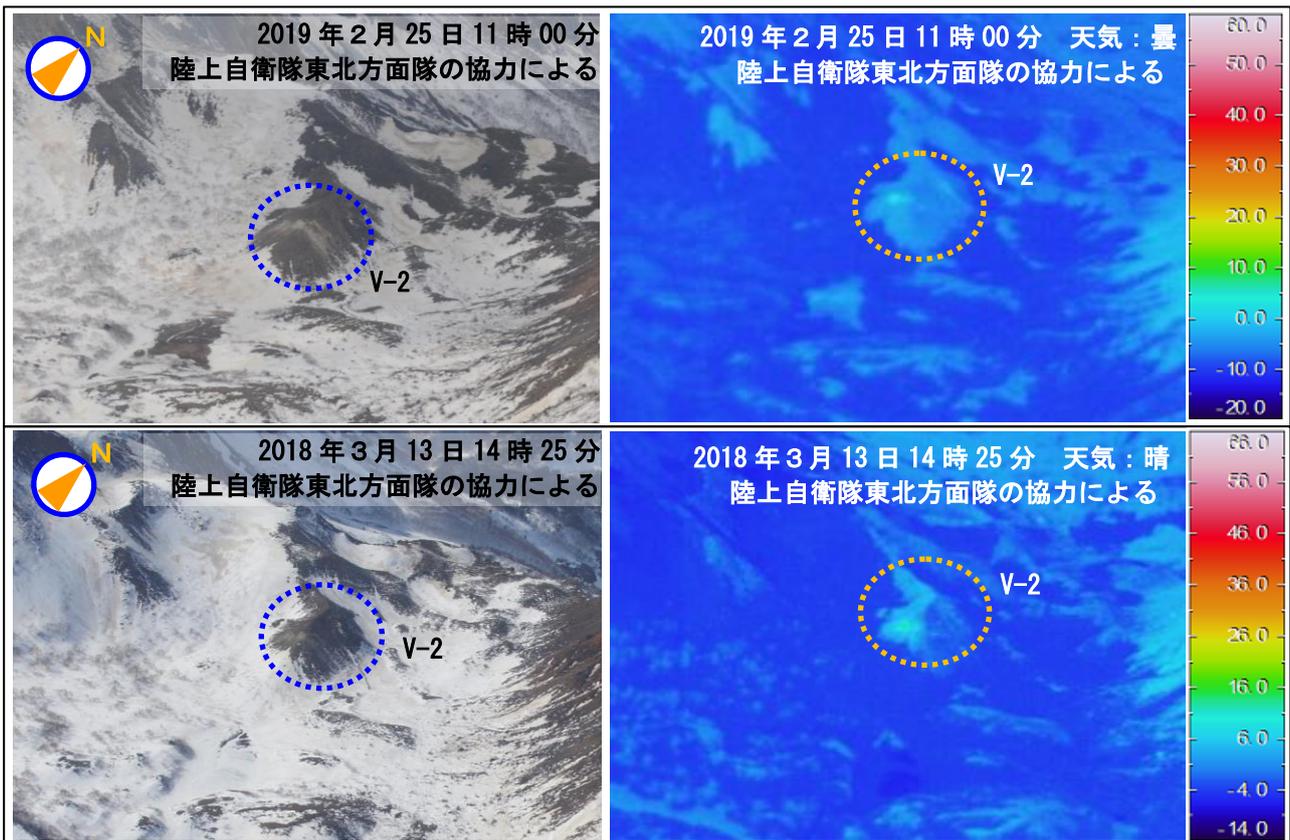


図 4 磐梯山 上空から撮影した沼ノ平噴気地帯 (V-2) の状況と地表面温度分布  
 ・噴気は確認されず、地熱域（破線）の状況に特段の変化は認められませんでした。  
 ※地熱域以外の温度の高い部分は日射による影響と推定されます。

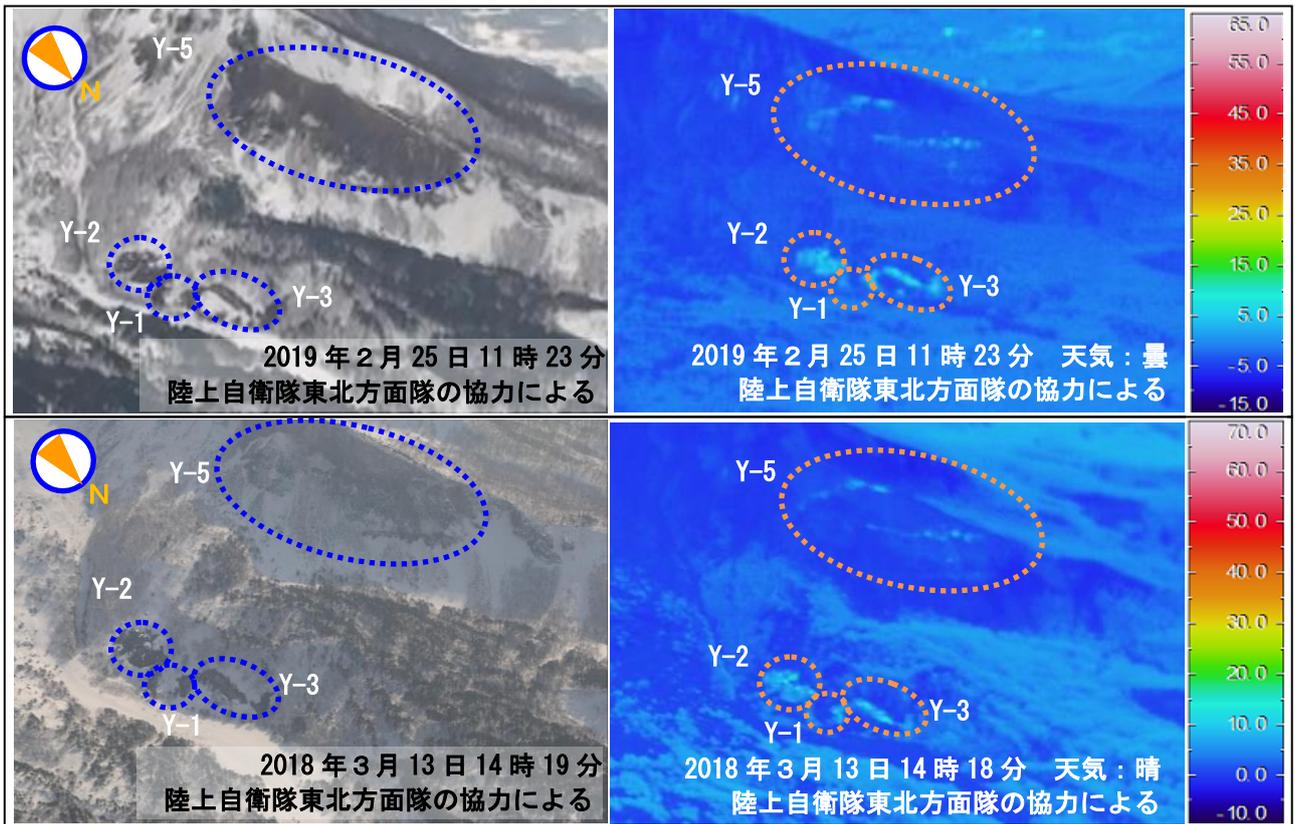


図 5 磐梯山 上空から撮影した火口壁噴気地帯（Y-1、2、3、5）の状況と地表面温度分布  
 ・噴気及び地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。  
 ※地熱域以外の温度の高い部分は日射による影響と推定されます。

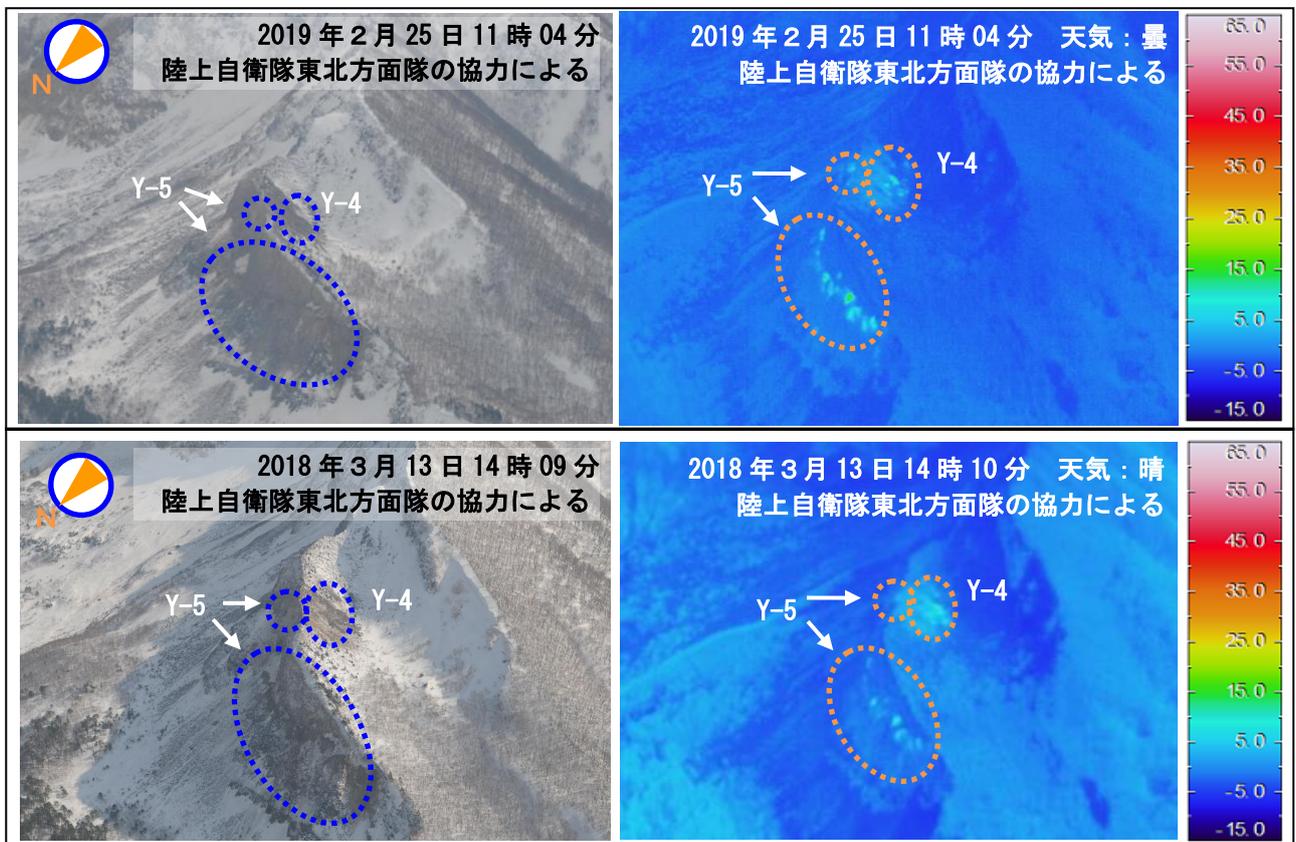


図 6 磐梯山 上空から撮影した火口壁噴気地帯（Y-4、5）の状況と地表面温度分布  
 ・噴気は確認されず、地熱域（破線）の状況に特段の変化は認められませんでした。  
 ※地熱域以外の温度の高い部分は日射による影響と推定されます。

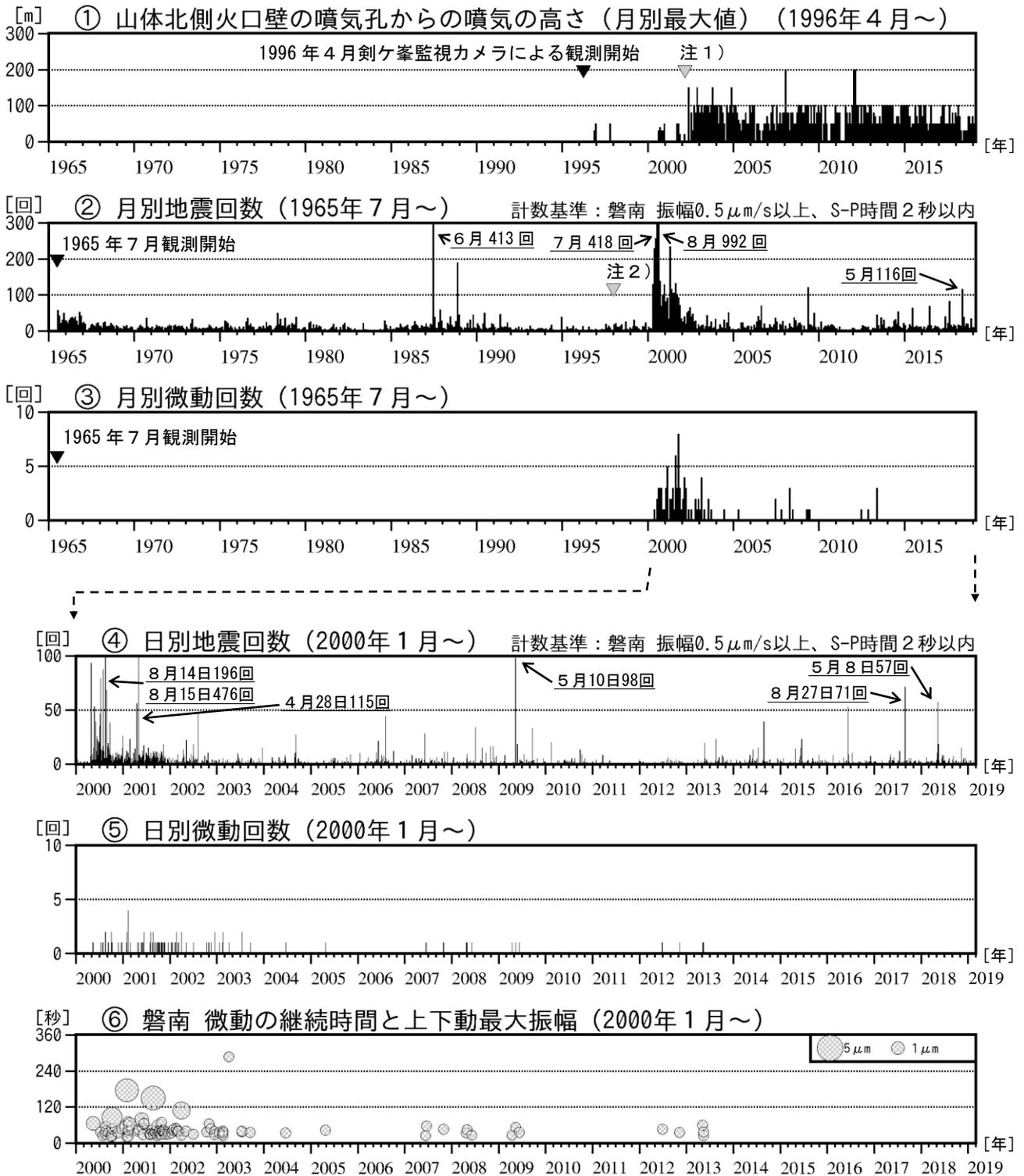


図7 磐梯山 火山活動経過図（1965年7月～2019年2月）

注1) 2002年2月以前は定時(09時、15時)及び随時観測による高さ、2002年3月以後は24時間観測による高さです。

注2) 1998年より計数基準をS-P5秒以内からS-P2秒以内に変更しました。

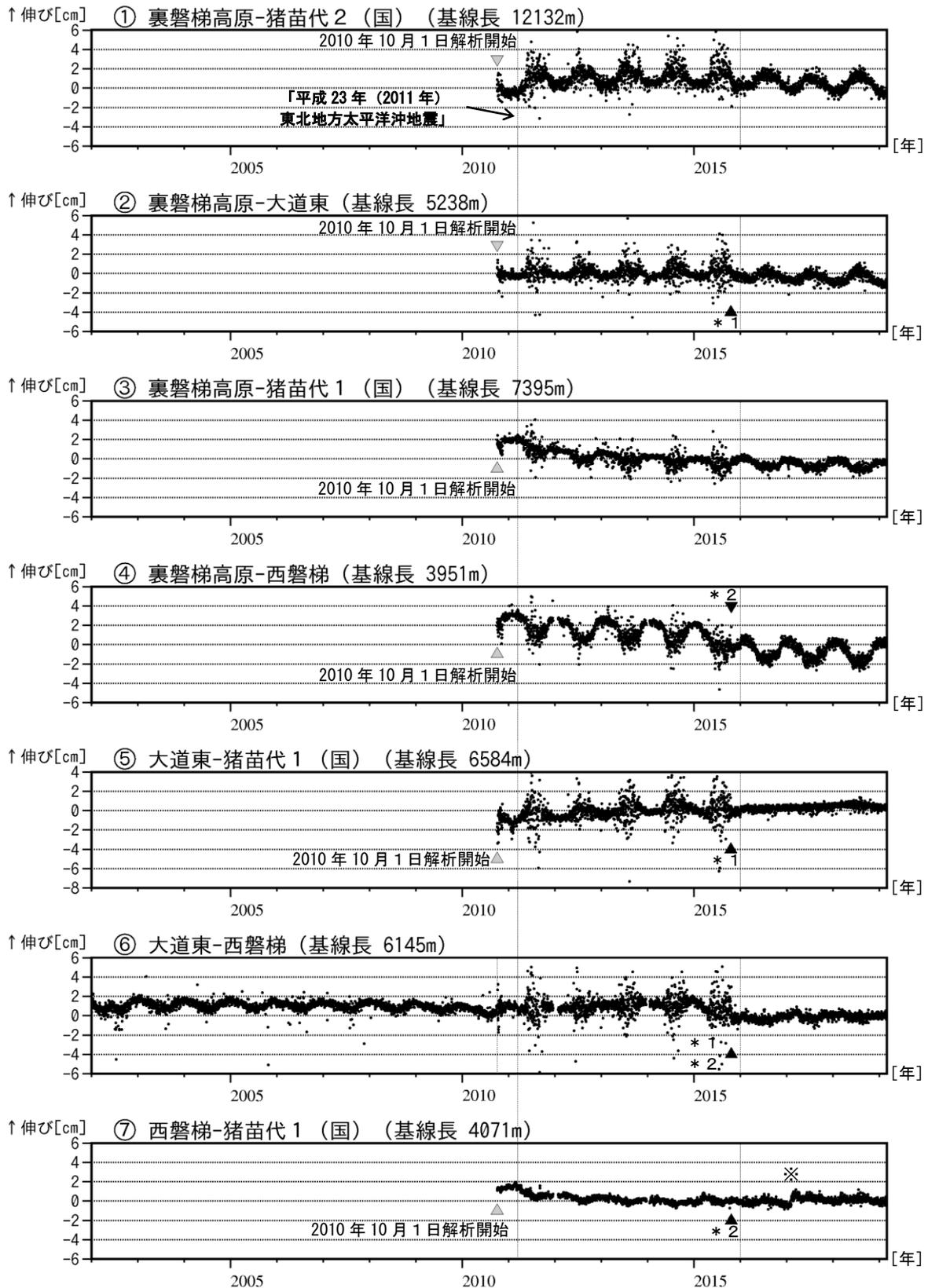


図 8 磐梯山 GNSS 基線長変化図 (2002 年 1 月～2019 年 2 月)

- ・ 2010 年 10 月及び 2016 年 1 月に、解析方法を変更しています。
- ・ 「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・ ①～⑦は図 10 の GNSS 基線①～⑦に対応しています。
- ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・ (国) は国土地理院の観測点を示します。
- ・ \* 1 : 大道東観測点の機器更新及び移設を行いました。\* 2 : 西磐梯観測点の機器更新及び移設を行いました。
- ・ ※西磐梯観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。

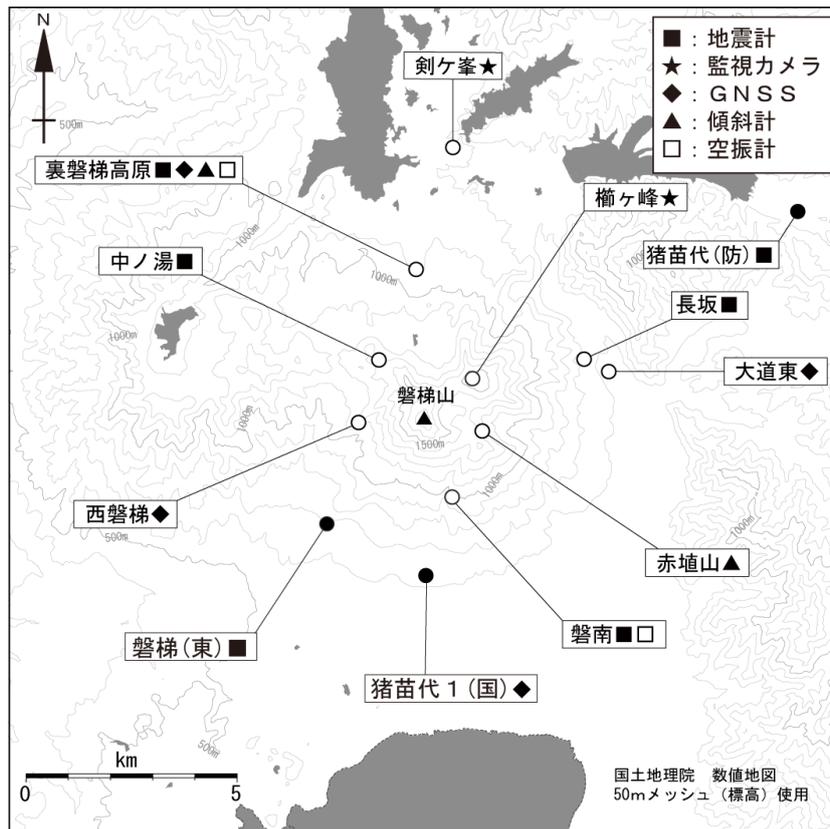


図9 磐梯山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

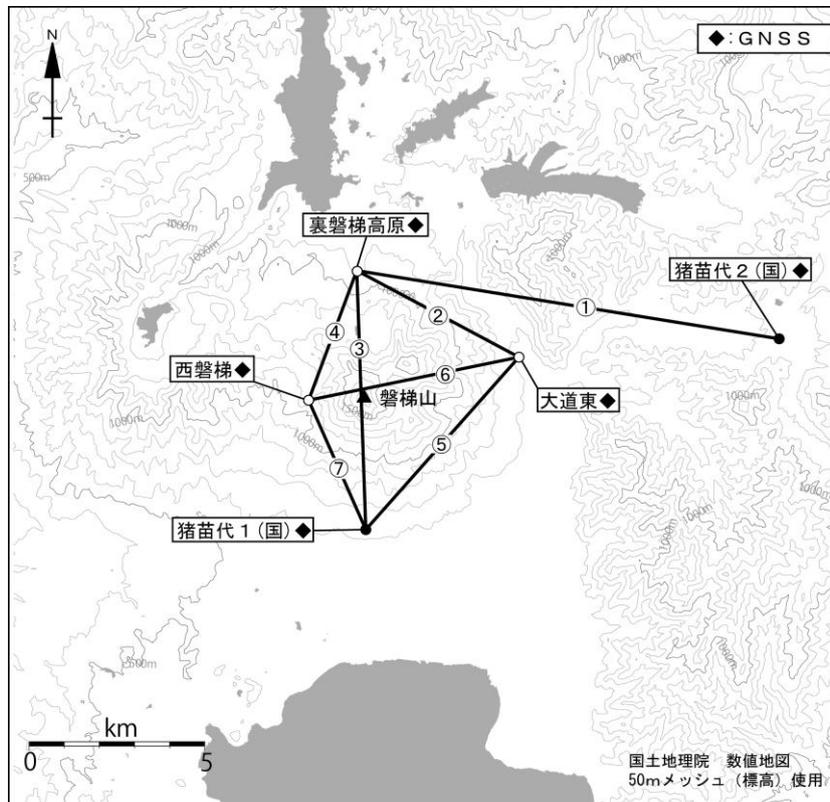


図10 磐梯山 GNSS 観測基線図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院